

# 会長挨拶

グローバル会計学会会長

菊谷正人

第8回研究大会は、専修大学神田キャンパス（準備委員長：石原裕也教授）において令和7年9月1日（月）・2日（火）に開催された。

9月1日（月）には、午後5時から1時間ほど理事会が開かれ、その後、近くのレストランで懇親会が催された。2日（火）には、午前12時からの会員総会を経て、12時50分から午後5時30分まで研究発表会が挙行された。今大会では、自由論題として5つのテーマで報告され、建設的な質問による活発な質疑応答が展開された。国際財務会計・国際企業報告、国際課税問題について、多面的・学際的に濃密な討論が行われ、理論的・実証的な議論が深耕できたものと思われる。その後、意見交換会・懇談会が近くのレストランで催され、旧交を温めることができた。

第8回研究大会では、3年振りに学会賞を輩出することができ、会員による高度な研究成果が学問的に評価されている。今後も、会員相互間の切磋琢磨・研鑽によって、会員の積極的な研究活動を期待したい。

なお、悲しい出来事であるが、金城大学教授・神戸大学名誉教授であり、本学会理事であった古賀智敏先生が、令和7年5月5日に逝去された。「巨星墜つ」としか言いようがない。

周知の如く、古賀智敏先生は、デリバティブ会計、国際会計基準、知的資産会計、統合報告等のような最新テーマに取り組み、世に問われていた。今後も、未開発・未開拓な研究テーマを見つけ出し、果敢に挑戦され続けるであろうことは想像に難くはない。やり残した仕事・論題がまだあったはずである。

令和6年12月26日に東京・神楽坂の料亭「加賀屋」で昼食を兼ねて、グローバル会計学会・租税実務研究学会共編『会計・税務グローバル化の功罪』（千倉書房、令和8年4月公刊予定）の出版編集会を数名で催した際にお目にかかったのが、最後になった。二人で総括編集を行う予定であったので、本人も残念であったに違いない。

本学会の立案・創立に貢献され、学会発展のために努力を重ねられてきた古賀先生を失うことは本学会にとっては大きな損失であり、学問の盟友としては断腸の思いである。

グローバル会計学会会長および学問の盟友として、研究・教育に情熱を注ぎ込まれ、多数の学術書を上梓されてきた超一流の研究者・教育者の古賀智敏先生の業績を讃えるとともに、ご冥福をお祈り申し上げます。